

令和 8 年 3 月 26 日

令和 7 年度学科別海外研修実施報告書

学 科 名	食品ビジネス学科																																
研 修 名 称	海外フードシステム現地研修																																
実 施 期 間	令和 8 年 2 月 2 8 日 ～ 令和 8 年 3 月 8 日 (9 日間)																																
渡 航 先	台湾 台中市 国立中興大学他																																
参 加 者 数	<table border="1"> <tr> <td></td><td>1 年次</td><td>2 年次</td><td>3 年次</td><td>4 年次</td><td>5 年次</td><td>6 年次</td><td>計</td></tr> <tr> <td>男子</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>女子</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr> <tr> <td>計</td><td></td><td>10</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr> </table> 【実施許可後の辞退者等】 有 / ☐ 無		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計	男子								女子		10					10	計		10					10
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計																										
男子																																	
女子		10					10																										
計		10					10																										
引 率 教 職 員	川手督也、阿久根優子、佐藤奨平																																
認 定 科 目 名	令和 7 年度海外フードシステム現地研修																																
修了証の有無	有 / ☐ 無																																
研 修 概 要	別紙・募集要項に記載のスケジュールに従い、予定通り、現地研修を実施した。																																
研修目的に対する成果	○現地での講義や視察、調査を通じて専門知識を深める ・・・別紙・募集要項に記載のスケジュールに従い、講義や視察、調査、体験学習を行った。その結果、参加学生たちは、研修目的であった台湾における農業や食品産業、日本との貿易を含むフードシステムの実態と課題について掘り下げて理解を深めることができた。 なお、3 月 3 日（火）午前の台湾国立中興大学において受講した講義（台湾の農産物のフードシステム）等については、英語で受講した。																																

その結果、参加学生たちは、英語での授業の受講についての経験を得て、今後の英語での学びにチャレンジする良いインセンティブを受けることができた。

○現地学生との交流を通じて異文化・他者理解を深める

・・・・・・協力・受け入れをお願いした台湾国立中興大学の学生 10 名と 3 月 2 日（月）午前の現地調査及び 3 月 3 日（火）の Welcome Ceremony、3 月 6 日（金）夜の台中市内夜市調査、3 月 7 日（土）午前の国立中興大学構内開催のオーガニック・ファーマーズマーケット調査などを合同で実施し、現地学生との交流を深めた。なお、3 月 3 日（火）午前の Welcome Ceremony では、英語で学科紹介を行った。

その結果、参加学生たちは、これまで経験がなくても、これまで習ってきた英語を通じてかなり意思疎通が可能なことがわかり、より積極的に交流を図ることができた。特に、日常的な食や文化に関する台湾と日本の相互浸透的な状況と文化的習慣的相違などについて理解を深めた。

○日本との比較考察を行い、異同や繋がりについて理解を深める

・・・・・・後期火曜 1 限に演習形式で行った事前学習において、日本と台湾の農業や農産物流通、食文化などについての比較考察を文献学習で実施した上で、別紙・募集要項に記載のスケジュールに従い、台湾の農業や農産物流通、食文化などに関する現地調査（体験学習を含む）を行い、日本と台湾との比較考察を深めた。

その結果、農業においては、水田農業が中心で規模が零細であること、土地利用型農業が全体として危機的な状況にあることなど共通の問題点がある一方で、有機農業をはじめとするサステナブルな農業・農産物流通の再編においては、日本が有機農業の農地面積に占める割合が 0.6%にとどまり、かつ漸増で量販店における取り扱いも積極的とはいえないのに対して、台湾は有機農業の農地面積に占める割合が数年で 1%から 3%近くまで増加し、スーパーマーケットや量販店における取り扱いも野菜や青果物では有機のコーナーが設けられるなど、かなり積極的であることなどがよく把握できた。

食文化については、主食は共通して米であり、食を通じた相互交流も歴史的に大変古くかつインパクトは大きい。台湾は日本に比べて調理法については油で炒めたり揚げたりすることが大きく、基本的な味付けは通して多種多様な主体によるが、日本の食に比べてきわめてスパイシーであることなどについてよく把握することができた。

なお、帰国後に現地研修の報告会を実施し、それをもとに報告書を作成した。

上記のとおり学科別海外研修を実施しましたので、ご報告いたします。

報告者 川手 督也

印